

---

## 16. ビジュアルフォーラム開催とセミナー、活動記録書作成（継続2年目）

ALCC

（全国）

---

### 1. ALCC活動の背景と目的

#### 1. 新たな社会潮流の中で

人口の高齢化、女性の社会進出、少子化、あるいは暮らし方の多様化などが進む現在、物質的豊さだけの追求は、私達の安心で健康な暮らしを脅かします。

今私たちは、人と人、人と自然、自然と都市が共生できる真に豊かな社会にするためにまた目標とする生き方、暮らし方を実現するために、暮らし方を見直し、住まいや都市の在り方、創られかたを問い直し、住まいづくり、まちづくりに主体的に参加し、実践することが不可欠だと考えています。

#### 2. ALCC（アルック）（Alternative Living and Challenging City）

ALCCは、[共に住む][共に創る][共に生きる]をコンセプトに1993年11月に誕生した研究活動グループです。誰にとっても生き生きと、美しく、真にやさしい街、住まいづくりを目指す意味を込めてALCCとしました。

ALCCは、既成の概念のみに捕らわれず、自立した人と人とが新しいかかわりを模索し主体的に行動することによって、より自由で、楽しく、安心して住み続けられる住まいづくり、まちづくりを目指す地域やジャンルをこえた参加型の研究・活動グループです。

#### 3. 様々なジャンルの人や住まい手が共に住まいの問題を考える

ALCCの特徴は、建築や都市計画、社会福祉、行政、ジャーナリズム、アート、主婦など多様な分野の人々が集まって知識や経験を出し合い、同時に自分自身の住宅の問題でもあることを自覚して活動していることです。

従来、住宅や都市づくりは、専門分野の人々の手にありました。今まで、住まい手は共に創る側にはいなかったといえます。これからは、生活者すなわち住まい手を中心にすえて居住や都市の在り方を考え、創造し、実践へ結び付けることが求められます。

これは「つくり手の理論」から「住まい手の理論」への転換です。



写真展示によるプレゼンテーション

## II. 活動の内容

### 1. 『ALCCスライド紙芝居』から『ビジュアルフォーラム』への展開

ALCC活動は、2年間で11回開催したりレーセミナーと歩学・見学、ワークショップ等で、参加者と共に蓄積した基礎にたつて、95年の財団助成活動の「ALCCスライド紙芝居」の作成とその広域的活用によって一段と進展したといえます。

96年の「ビジュアルフォーラム」の開催は、「ALCCスライド紙芝居」の広域的活用と合わせ、新しい住まい方、参加型住まいづくりの魅力、長寿時代の住まいの選択などについて、国内外の事例研究から得た成果を多くの方々と共に共有しつつ実践に向けての討論の場づくりでもありました。

「ビジュアルフォーラム」の会場では、新しい住まい方や参加型の住まいづくりへの共感や、もっと詳しい情報がほしい、スライドを活用したいなどという要望があること、公共の担当者も興味をもってきていること、コレクティブハウジング実現へのニーズのあること、などもわかりました。また地方からの参加者も多く、公開性を高めた効果は十分に感じました。

#### □写真展示 ～コレクティブハウジングとハウジング写真展～

展示によるプレゼンテーションは、新しい住まい方の「魅力」を抽出した8枚のパネルを中心に「都市と女性」「ALCCワークショップ」の紹介パネルや模型などの展示とビデオによって行いました。よりアクティブな方法で展開することによって、コレクティブハウジング、リビング、参加型の住まいづくりへの理解を深めようとの試みです。

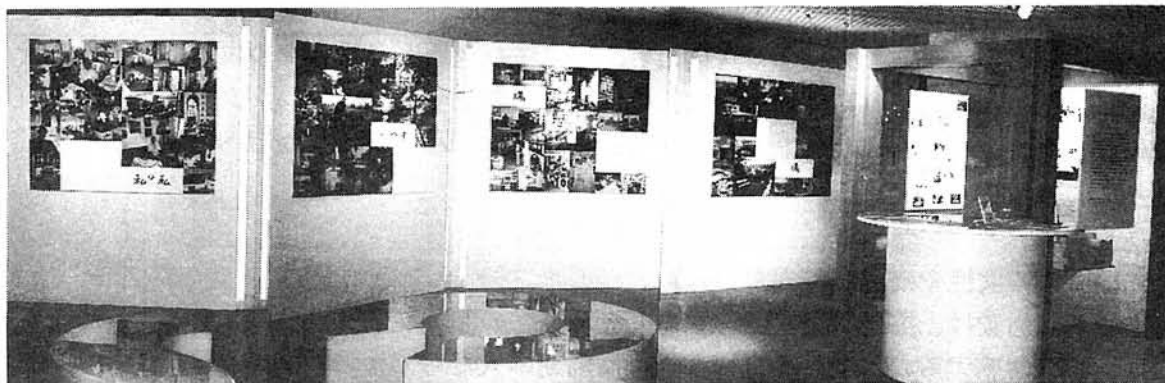
“魅力”を抽出した8枚のパネルは、住まい方の豊かさを表現したもので、「食べる」「まなぶ・育つ」「遊ぶ・いこう」「私は私」「いやす」「働く」「場」にまとめ、言葉による短いメッセージと組み合わせたものです。住まいの豊かさとは何かが表現できたと思います。会場で依頼したアンケートにも多くの方々共感を表してくれました。

#### □フォーラム ～コレクティブハウジングのゆくえ～

フォーラムでは、実際に何処に、誰と、どのように住みたいのか、また「共に住む、共に生きる、共に創る」住まいの可能性をALCCスライド紙芝居とゲストのトークとディスカッションで構成しました。

ゲストは、中原洋、森 和、内田純平、館かおる各氏と淡谷まり子、小谷部育子をコメンテーターに迎えました。都市や住まいのあり方に理念をもち、経験も実に豊かなゲストたちのコレクティブハウジングへの縦横な意見は大変参考となりました。

会場からはネットワークのできつつあることなど力づよい発言もあり、ミニパーティーの会場も熱気にあふれて、人と人との出会いの大切さが実感されました。



8枚のパネルを展示

## 2. 「ALCCスライド紙芝居」の広域的活用

ALCCスライド紙芝居はコアメンバーのスケジュールを調整して8回出前をしました。その範囲は多様で、「国立婦人教育会館・女性学・ジェンダー研究フォーラム」「兵庫県公営住宅推進協議会講演」「住宅・都市整備公団（参加型集住に関する研究）」「BS討論・団塊の世代、老後をどう生きるか」の取材活用、「日野市市民講座」「東京都住宅局・住まい研究会」「国際女性デー・コーポ住宅実現への試みとその問題点」等です。これは、点から面への出発点といえるでしょう。

情報を共有しながら「住まう」ことの本質をきっちりと議論することから、「うさぎ」から人間へ、そしてオルタナティブハウジングへと進展できると考えています。

## 3. ALCC実践セミナーの開催

フォーラム開催と並行して実践セミナーを3回開きました。都心、多摩の2つの敷地を具体的に設定してのワークショップです。本助成の枠外ですが概要のみ添付します。

## 4. ALCC NEWSLETTERの発行・NO. 1～NO. 22

1994. Feb～1997. Aprまで22号の発行をしました。ALCCサポートメンバーや支援メンバーに送付しています。最近号から活動報告の他に、「私の居住歴」「コレクティヴクッキング」「住まいとまち」など連続のコーナーを設け好評です。



第1回実践セミナーのワークショップ テーマはくコレクティブハウジングを創ろう>

## III. 活動の効果及び今後の課題

### 1. 実践への機運

今回のビジュアルフォーラムでは、新しい住まい方への共感の広がり、プロジェクト実現の機運も見えてきたところです。自分自身の高齢期の住環境や、生活をより自分らしく豊かなものにしたいと考える働く女性たち、共に住む老親と自分自身の生活の質の双方を大切にしたいと考える中高年の子世代、差別的な視線を受けやすいシングル女性など、従来の家族概念からは計れない生活者たちのコレクティヴハウジングなどへの注目度が実感されました。

### 2. 聞こえる女性や高齢期の人たちの声

ALCC活動は、男女共生社会を求めて、活動への参加に制約はありませんが、ALCCの主張に共感するのはなぜか主に女性や高齢期の人たちです。長寿命、経済的弱者、社会の旧態然としたジェンダー観や、旧来の狭い法制度の裏返しであると考えられます。

### 3. 草の根グループの誕生

新しい住まい方の実現に向けて取り組む草の根グループや、またいち早くニーズを捉えた民間住宅産業も動きはじめました。しかし、本来参加型の住まいづくりは、“創る過程への参加がカギ”という点など問題もまだあります。また、行政も少しずつ動いていますがまだ制度化には至っていません。ALCCはこれからも草の根グループを大いに支援していきたいと考えています。

### 4. ALCCのアクティブメンバーの増加

ALCCは、アクティブメンバー、サポートメンバー、支援メンバーによって構成されていますが、アクティブメンバーが増えました。心強いかぎりです。人と人との交わりは、はんなりとした程よい関係を育むでしょう。

### 5. 公共的住宅供給の枠組みへ

兵庫県を第一号に主に高齢期の人を対象にしたコレクティブハウジングが計画されています。これは日本的な福祉型のコレクティブハウジングといえます。確かに一歩前進かもしれませんが、これからは、世代や旧来の枠組みを越えた進展が望まれます。さらなる期待と応援とサポートをします。

### 6. コレクティブハウジングの普及方策

どこでも誰でも「コレクティブハウジングを学びたい」「住みたい」「創りたい」グループへの情報提供、応援、企画協力をさらに進めるためにALCCスライド紙芝居の「普及版」作成や「ビデオ」等を作成しさらに広域的活用へ展開する準備中です。なお、ビデオ作成については支援を希望しています。

### 7. ALCCハウスを創ろう会の実現に向けたスタート

特に、東京中心部を望むコレクティブハウジングの実現をめざして“「創ろう会」をつくらーかい”という機運。スタートに向けてウォーミングアップを開始しました。

### 8. ALCC記録の冊子化、ALCCニュースの発行

過去3年間の記録が冊子へ集約できれば、活動の資料として力強い味方になるので、ぜひ進めたい。現在整理中ですが、冊子化への支援を希望しています。

ニュースの発行は、現在隔月ですが、さらに回数を増加させることを検討しているところです。情報は、早く新しく、身近にあることが大切だと感じているところです。

### 9. ALCC歩学見学の充実

実際の暮らしの場やまちを歩学・見学する体験の共有化は大切です。充実が望まれています。コレクティブハウジング体験入居なども実行したいと検討しているところです。

### 10. ネットワーク

「暮らしと住まいのネットワークセンター」等の活動へ協力しネットワーク化をすすめることも大切な課題であり、ALCCもセンター創立準備に参加しているところです。